

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0591200084		
法人名	有限会社 福寿		
事業所名	グループホーム角館		
所在地	秋田県仙北市角館町勝楽122-1		
自己評価作成日	令和4年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和4年10月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

コロナ禍での前年度の目標において、達成が出来なかった部分について反省し今年度も同じ目標を設定した。「希望や想いを実現させよう!~あなたの本当の笑顔が見たいから~」一人ひとりのニーズに応える個別ケアについて十分とはいかない部分があったように感じている。今年度は、もっと日常の行動や言葉に目や耳を傾け、心の声に気づき、笑顔が引き出せるように努めている。  
入居者様の想いや希望を叶える為に何ができるのか模索し、未だコロナ禍の厳しい中ではあるが、昨年同様に口腔衛生、栄養管理体制を整え、3度の食事が楽しく、美味しく、笑顔の溢れる時間であるように職員も自然に笑い合える環境を心掛けている。  
昨年、秋田県介護サービス事業所認証評価制度の認証を受け、地域に自信を持ってアピールしていきたい。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

季節の食事やおやつは利用者の楽しみの一つになっているようです。普段の食事も見ただ目もきれいに盛り付けられ、適量が提供されています。毎月の状況報告書の仕様を見直すと共に利用者の様子を動画で送信する等、コロナ禍で家族と関わりを持つ機会が少ない今、工夫をしながらこれまで以上に家族と信頼関係を深めています。日々の記録をする中でも、職員が意見を出し合って様式の見直しを繰り返し、業務の改善に繋がっています。設定した目標の達成に向けて方向性を明確にし、利用者の希望が実現できるよう職員が一丸となってサービス提供されています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 1 自己評価及び外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を踏まえた上で、毎年、職員全員に意見を募り事業所理念を決めている。日々意識をしながら業務ができるよう目につく場所に掲示し理念内容に添った支援を心掛けている。	日々の関わりの中で利用者の意欲を引き出しながら、理念、目標の実践に向けて努力をしています。6ヶ月毎に実践状況を振り返る作業を全職員で行い、利用者の生活を支えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域との交流は思うようにできていないが、今年は3年ぶりに角館の祭典が行われ2町内の山車が施設前で踊りを披露され、入居者様達のほとんどが観覧し喜ばれていた。	以前と比較すると近隣の方々との交流に変化はみられますが、近所の美容院を利用したり、町内会長を通じてできることを生活に取り入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	コロナ感染が収束するまでは、地域との交流は自粛している。 運営推進会議には、書面で協議をいただいている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により運営推進会議は、書面での協議が続いており、ホームの取り組み等の内容について意見をいただきサービスの向上に繋げている。	ホームの取り組みを報告しており、書面上であっても参加メンバーの意見、提案が引き出せるように取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症なんでも相談所の設置や入居に関する情報を共有しており、様々な相談等をさせていただき連携しながら事業所の運営を支えてもらっている。	関係各部署と協力関係が築かれています。包括支援センターとは日頃から連携が図られ、利用者の支援に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束は行わない」を念頭におき日々のケアを行っている。毎年、身体拘束と併せて虐待の研修を行い正しい知識と理解に努めている。	職員は内容をよく理解して取り組んでいます。気になる言葉遣い等があった時にはその都度注意するようになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用している入居者様があり、権利擁護に関する研修も毎年行っている。今後は誰もが理解し活用できるように制度の内容をもっと学んでいきたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明書の項目について細かく説明し同意を得ただけのように努めている。いつでも、解からないことは聞いていただけるよう伝えている。介護報酬改定時も同意を得ている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	契約時に施設内と外部の相談窓口について説明している。書面や電話等でご意見を伺っており代表、職員間でご意見を運営に反映させている。	管理者の交代がありました。さまざまな工夫をしながら家族と信頼関係を築いて意見等の引き出しに努め、サービスの向上に繋がっています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	職員と個別に面談を行い、個人の目標や希望する研修等を伺い、情報提供を行っている。経営管理会議での報告や相談により反映させている。	職員の意見や提案が代表に伝わる仕組みができています。職員間で気軽に話ができる環境があり、運営に反映されています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との直接の交流は、コロナ禍により実施できていないが、リモートでの研修や交流により意見交換や学ぶ機会を設けサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話を通して、入居者様の不安な気持ちや困っていることに耳を傾け、職員間で問題を共有し早急に解決し安心できるように努めている。日々、会話がたくさんできる関係づくりを心掛けている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランの更新時の要望や日常での些細なことも気軽に相談できる関係性を大切にしている。近年は、緊急を伴わない場合はSNSを利用しメールや動画で状態を報告している。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の暮らしの中で、支援やできる事を役割活動とし互いを補い支え合いながら生活している。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の不安や帰宅願望の先には、ご家族様への思いが強く、ご家族様もその状況を把握されており、電話やリモート面会等で安心できるようにいつも協力を頂いている。毎月のホーム便りも活用してお伝えしている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	電話の取次ぎの支援は定期的に行っている。入居者様本人が通販で欲しい物を購入したり、毎月1回行きつけの店舗でのお買い物ができるように支援している。	電話やリモートで面会できるようにする等、大切な人との関係が途切れないよう支援してまます。入居後も在宅時に行っていたことが継続できていることも理念の実践に向けた支援に繋がっています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースが楽しい場所になるように、食席を変えたり、入居者様同士が気軽にお話ができる工夫をしている。レクレーションや毎月の作品制作も協力し合い、1つの作品を完成させみんなで達成感を味わっている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了となっても、今後に向けての心配事や不安な時は、いつでも対応することを伝えている。一旦契約が終了しても、必要であればまた利用したいと言われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から、入居者様一人ひとりの希望や思い、意向を汲みとりモニタリングし個々のケアプランに反映させ達成できるように支援している。	利用者と会話の機会を多く持つことを心がけ、入浴時やその他の個別ケアにあたる時を大切なものとして取り組んでおり、その人の意向に沿って意欲が生まれる暮らし方になるよう検討しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にも伺っているが、ふとした行動や変化に対してもその都度、入居者様やご家族様からも情報をお聞きしている。昔の馴染みあるキーワードは、時折会話の中で活用し楽しい会話ができるように支援している。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	入居者様の希望や思いを実現するための目標をもとにご家族様の要望や医療機関からも意見を伺い職員間でも話し合い、状況に応じて見直しをしながら作成している。	日々の記録を基にモニタリング、再アセスメントを行い、利用者、家族の意見を反映させた介護計画をつくっています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン内容を個別記録の中に記載しチェック式にした。新たな気づきや変化を重点的に記録し職員間で情報を共有、課題や支援内容の見直しに活かしサービス計画に反映させている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今までも、地域資源に支えられ豊かな暮らしが継続できるように支援してきた。今後は入居者様がより一層豊かに楽しく生活できるように、新たな地域資源の協力が得られるようにしていきたい。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様とご家族様の希望を伺っている。基本はかかりつけ医への受診の継続としているが、施設が関係を築いている協力医療機関や歯科、薬局へ入居者様、ご家族様納得の上で適切な医療を受けられるように支援している。	希望に沿って対応しています。医科、歯科の協力医及び薬局とも連携が図られ、適切な医療支援が行われています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	敷地内に訪問看護ステーションがあり常に情報を共有しており、相談できる状況にいる。緊急時も早急の対応ができる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、退院時はお互いの情報を伝えあっており入院時は経過の情報を細かく伺っている。いつでも退院の支援ができるように関係性を密にしている。医療連携の研修会等にも参加し関係を大切にしている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「医療連携体制概要書(重度化した場合の対応等を含む)」について同意を頂いている。重度化が見込まれる場合は、入居者様、ご家族様と話し合いを重ね、意向を尊重しながら方向性を決めていただいている。	指針に沿って支援することとしており、対象の利用者はいないものの、かかりつけ医への確認等、今後に向けた対応を検討しています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを整えており毎年、研修を通し繰り返しのシュミレーションを行っている。コロナ禍により開催頻度は減っているが普通救命講習に参加し、直ぐに判断のできる実践力を身につけている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年4回の避難訓練を予定しており、7月は水害想定での訓練を行った。今後、地震想定と火災は昼想定と夜間想定を行い職員全員が適切な対応ができるよう体制を整えている。	夜間の災害時に近所の協力が得難い部分があるものの、近所に住む職員や同じ建物内にある他サービス事業所間の連携体制を整えて、緊急時に備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりを尊重し、個々に対しての言葉遣いをそれぞれに統一しながら接するようにしている。プライバシー保護の取り組みに関するマニュアルの研修も毎年行っている。	利用者の意思を尊重し、個々の性格や習慣に応じた暮らし方ができるよう、その人に合った対応を心がけています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様本位の服装や髪型を伺い支援している。外部の美容室への送迎や毎月買い物に興味で好きな洋服を購入される方もおられる。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1週間の献立が決まっており、日常的に入居者様の好物を伺いその中に食べたいメニューを取り入れている。五感で感じて食事が待ち通しく楽しい時間になるように心掛けている。盛り付けや後片付けもお手伝い頂いている。	利用者は食に関する作業に積極的に参加し、それぞれの得意なことややりたいことに力を発揮しています。利用者は自分のペースで食事を摂っており、職員と一緒に食事をしていませんが、見守り、声かけを行っています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月、栄養管理体制を整備し、管理栄養士の意見や指摘をいただいている。個々の水分摂取量やカロリー計算によって健康の維持を図っている。習慣に応じ主食を選べるようにしている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月2回、歯科医師や歯科衛生士の訪問で、口腔衛生管理体制を整備している。入居者様一人ひとりへアドバイスをいただき、口腔内の清潔保持に努め、より良い状態の維持を目指している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在はテーブル式のオムツの使用の方はゼロとなっている。日中は排泄チェック表を基に声掛けし個々のパターンや習慣を活かし、トイレ排泄ができるように促し、自立に向けての支援に努めている。	全員トイレで排泄しています。現状が維持できるように一人ひとりに応じた支援に努めています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ、薬には頼らず自然排便ができるように工夫している。食物繊維の多い食材の使用や朝は冷たい牛乳、おやつはオリゴ糖ときな粉入りヨーグルトの提供、腸の働きを活性させるために体操も工夫し便秘予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様一人ひとりの体調や気分に合わせて午前と午後に分けスムーズに入れるよう声掛けをしている。好みの入浴剤などリラックスしながらゆっくりと気持ち良い時間となるよう工夫している。	他サービス事業所の浴室の利用が可能なこともあり、利用者の希望に応じて入浴できるよう調整しながら支援しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりのペースや希望に合わせて休憩するタイミングも把握し対応している。入浴されたり、寝不足気味だったり、情報を共有し体調の変化に応じながら休んでいただいている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在入居者様全員の服薬している効能と副作用についての一覧表を1つのファイルにまとめ理解に努めている。症状の変化が生じた場合は、法人内の看護師や関係機関と連携を図り相談や指示を受け適切な対応を心掛けている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝、入居者様全員に珈琲を淹れる方、洗濯物を干す方、たたんでくれる方、盛り付けをして下さる男性入居者様も居り、個々の支援計画に記されており、毎日の日課として行えるよう支援している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍においてなかなか全員の希望通りにはいかないが、春にお花見とラベンダー園へ外出の支援。日常的には、毎月、買い物や送迎、付き添いの支援など行っている。天気の良い日は、気分転換に散歩や戸外のお花への水やり等でリフレッシュする時間をつくっている。	個別の希望に応じて出かけたり、天候に相談しながらできる限り外気に触れる機会をつくるよう努めています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、入居者様本人の意向やご家族様の考えにより異なりますが、お金を使うことが可能な方は、買い物をされ支払いまでを同行し見守りしている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルの席は、できるだけ気の合う同士、話の合う方同士で座っていただいている。季節の貼り絵は毎月レクレーションで制作し皆が見えるところに貼っている。季節のお花を毎月持ってきて下さるご家族様がおり、生け花の先生をしていた入居者様に生けてもらっている。	ホーム内は清潔感のある落ち着いた色調で統一されています。廊下は広くて見通しが良く、居室、トイレへの出入りに気を配ることができます。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや窓際にソファを置いて、それぞれにくつろいだり、日向ぼっこをされている。ソファで昼寝をされる方もおられる。室内温度を一定に保ちユニット毎にオゾン発生機能付空気清浄機を設置している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を揃え、安心感の中で生活されている方や、いつも綺麗に整頓されている方、ご家族様の写真に見守られて生活されている方、テレビはほとんどの方が持ち込まれ、好きな時に見られている。	ホームのものを有効に使いながら、馴染みのものが持ち込まれ、利用者の安心できる生活のために家族が居室づくりに積極的に協力しています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札やトイレの表示、全バリアフリーで各所に手すりが設置されている。ヒヤリハット報告書、事故報告書を活用し日常生活のリスクを減らすことで安心で安全な自立した生活ができるように工夫している。		